

会報

METAL FORM

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

No. 47
2013年7月

CONTENTS

ぽてんしゃる

- 2 会員が活動しやすい環境づくりを如何にすすめるか
一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 代表理事会長 八木隆

「第65回定時総会(一般社団法人移行後第5回)」「MF優秀社員表彰式」「MF功労賞贈呈式」を開催

- 3 八木隆新会長を選出。MF-Tokyo/MF技術大賞/MFエコマシン認証制度をコアとして、スーパー特自検制度、ISO規格策定などの諸事業を積極推進

MF-Tokyo 2013 INFORMATION①

- 5 “マザーマシン鍛圧機械と塑性加工・レーザ加工の技術の進化”をテーマに『MF-Tokyo 2013プレス・板金・フォーミング展』が開幕

MF-Tokyo 2013 INFORMATION②

- 6 MF-Tokyo 2013シンポジウム/特別講演会開催日程

MF-Tokyo 2013 INFORMATION③

- 7 MF-Tokyo 2013展示小間/出展企業一覧
201社出展・1,062小間と最大規模

MF-Tokyo 2013 INFORMATION④

- 9 最新の鍛圧塑性加工技術情報を発信
日本塑性加工学会・レーザ加工学会テクニカルセミナー25講座、出展テクニカルセミナー45講座を開催

会員企業訪問

- 11 回転塑性加工技術をベースに、スピニング&フローフォーミングマシンを展開
日本スピンドル製造株式会社
- 13 端材搬送用チップコンベヤでは国内トップ。エンジニア力を高め、システム対応を強化
大峰工業株式会社

INFORMATION FILING

- 15 新聞報道から見た会員動向/鍛圧機械 全会員受注グラフ(月次業況調査)/ISO/TC39/SC10/WG1第6回国際会議に出席/お悔やみ

組織

- 18 2013・2014年度 委員会・専門部会委員一覧

工業会の動き (4月~6月)

定時総会

・第65回(5月17日)決算、役員改選、芝パークホテル

役員・社員表彰式

・(5月17日)MF功労賞贈呈式、MF優秀社員表彰式、芝パークホテル

理事会

・第22回(4月16日)書面)決算承認
・第23回(5月17日)役職人事、芝パークホテル

会計監査

・(4月9日)2012年度会計監査

委員会

■ISO/WG1対策委員会
・第17回(5月9日)第6回国際会議およびAd-hoc会議の報告
・第18回(6月27日)今後の進め方について

■JIS改正原案作成分科会
・第2回(4月12日)JIS改正原案について
・第3回(6月20日)JIS改正原案について

専門部会

■レーザ・プラズマ専門部会
・第8回(4月23日)ファイバーレーザ加工機の安全要求事項の内容を審議

・第9回(6月26日)ファイバーレーザ加工機の安全要求事項の内容を審議

■MFスーパー特自検策定チーム

・第7回(5月14日)MFスーパー特自検チェックリスト案について
・第8回(6月18日)MFスーパー特自検チェックリスト作成に関して

MFエコマシン認証

■MFエコマシン認証審議会
・第22回(6月11日)エコマシン認証審議

会員退会

・小森安全機研究所(2013年5月17日退会)
・川副機械製作所(2013年5月20日退会)



会報 METAL FORM No.47 2013年7月

発行所/一般社団法人 日本鍛圧機械工業会
〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館3階
TEL.03-3432-4579 FAX.03-3432-4804 URL: <http://www.j-fma.or.jp>
発行人/松本 憲治 発行/季刊:1月、4月、7月、10月の4回発行

■本誌に掲載した記事の無断転載を禁じます。

会員が活動しやすい環境づくりを 如何にすすめるか

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 代表理事会長
(アイダエンジニアリング株式会社 取締役常務執行役員)

八木 隆



日本鍛圧機械工業会は、2009年4月の一般社団法人移行前後に、様々な制度や鍛圧機械産業に資する取り組みを展開しています。

MF-Tokyo プレス・板金・フォーミング展の開催、MFエコマシン認証制度、MF技術大賞などです。そのどれもが、会員各位のビジネスに直結した取り組みです。09年から実施したMFエコマシン認証制度は、震災後また円高是正に伴う原油価格の値上がり等、不安定ともいえる電力事情の対応に苦慮するユーザーに省エネ製品として勧めやすくなっているでしょうし、MF技術大賞はその技術の優位性を訴えるのに非常に有効な手段になっているのではないのでしょうか。

これまでの取り組み、そしてこれからの取り組みとして我々工業会ができることは、会員各位が動きやすくビジネスをしやすい環境づくりを目指すことであると認識しています。

代表理事会長としての私の使命は、直近に控えた「MF-Tokyo 2013プレス・板金・フォーミング展」を如何に成功裏に収めるかと「スーパー特自検制度」をいかに纏め上げるかの2点と思っています。

ご存知のように、MF-Tokyoの実施前、当工業会はJIMTOF内で展開していましたが、来場者の多くが切削系ユーザーのため、展示会の成果がなかなか見えにくい状態が続いていたかと思います。しかし、MF-Tokyoは、鍛圧機械の専門展示会として今回で3回目を迎えるわけですが、出展の規模並びに来場者数が毎回約20%づつの伸びを示しています。また、海外

からの出展も増加しており、鍛圧機械の開発生産国としてアジア地域にこのMF-Tokyoが浸透しつつあると思いますので、今回以降、更に拡大に弾みをつけたいと考えています。

また、前年度から取り組んでいる「スーパー特自検制度」も大切な案件です。労働安全規則の改正に伴い、機械メーカーがリスクアセスメント情報の提供をすることになり責任は大きくなりましたが、ユーザーの労働安全を如何に高めるかは、極めて重大であると認識しています。しかし、「スーパー特自検制度」への取り組みは、メーカーサイドだけではなく、お客様であるユーザーとの連携が重要となります。リスクに関する相互の情報交換が可能となれば、改善が進み、よりよい製品開発と安全が実現すると思っています。

また、これからの取り組みとしては、プレス機械における安全規格の国際標準を策定することが挙げられます。すでに欧州の関係機関と標準化に向けたWG（ワーキンググループ）の会合が開かれ、来年は日本でその国際会議が開催されることになっています。安全性能が高い製品を有する日本が、質の高い提案を行いISOの策定に積極的に参画していきます。世界共通の安全基準のルールの中かで販売することができ、お客様も容易に機械の移設が出来るようになります。プレス機械の安全についてのISO規格策定は、我が国の鍛圧機械産業に大いに貢献すると確信し、努力していきます。

(談)

報告

「第65回定時総会(一般社団法人移行後第5回)」 「MF優秀社員表彰式」「MF功労賞贈呈式」 を開催

八木隆新会長を選出
MF-Tokyo/MF技術大賞/MFエコマシン認証制度をコアとして、
スーパー特自検制度、ISO規格策定などの諸事業を積極推進

定時総会／優秀社員表彰式

一般社団法人日本鍛圧機械工業会は5月17日(金)、東京港区の芝パークホテルにおいて、第65回定時総会(一般社団法人移行後第5回)ならびにMF優秀社員表彰式を開催した。

定時総会は午後3時に開会、来賓紹介ならびに高瀬孔平代表理事会長の挨拶に続いて議事進行に入り、報告事項として「2012年度事業報告書」「2013年度事業計画書並びに正味財産増減予算書」の説明、討議が行われ、2013年度の活動については、MF-Tokyo/MF技術大賞/MFエコマシン認証制度をコアとして、さらにスーパー特自検制度、ISO規格などの諸事業を積極的に推進していくとの報告があった。

次に決議事項として、第1号議案の「一般社団法人日本鍛圧機械工業会の2012年度の決算書」を承認。第2号議案として「一般社団法人日本鍛圧機械工業会の理事」を15名選任し、第3号議案「一般社団法人日本鍛圧機械工業会の監事」を選任した後に第23回理

事会を開催、代表理事会長にアイダエンジニアリング株式会社取締役常務執行役員・八木隆氏を選出した。また理事副会長、専務理事、各委員会委員長が下掲のとおり選任された。選任理事は総会に参加した会員企業にも報告され、総会は終了となった。



事業展開の抱負を語る八木隆新会長

総会終了後、総会と同会場で優秀社員表彰の贈呈式が行われた。今回から表彰は「技術賞」「技能賞」「海外賞」「サポート賞」の4部門が設けられ、次ページに掲載されているようにそれぞれの部門で功績のあった11社23名の方々が表彰の栄を受けた。

2013/2014年度 役員一覧(2013年5月17日現在)

<代表理事会長>

八木 隆 アイダエンジニアリング株式会社 取締役常務執行役員

<理事副会長>

岡田 正 企画委員会委員長
株式会社 小松製作所 常務執行役員
宗田 世一 技術委員会委員長
株式会社 エイチアンドエフ 代表取締役社長
高瀬 孔平 鍛造プレス専門部会会長
住友重機械工業株式会社 特命担当
前田 彰 サービス専門部会会長
村田機械株式会社 常務取締役
岡田 博文 中部関西地区部会会長
株式会社 栗本鐵工所 取締役事業本部長

<専務理事(員外理事・業務執行理事・常勤)>

松本 憲治 一般社団法人日本鍛圧機械工業会

<理事>

内田 百馬 調査統計委員会委員長
オリイメック株式会社 代表取締役社長
浜川 善和 広報見本市委員会委員長
トルンプ株式会社 取締役副社長
網野 雅章 中小企業青年委員会委員長
株式会社 アミノ 代表取締役社長
児玉 正蔵 油圧プレス専門部会会長
株式会社 小島鐵工所 代表取締役社長
阿比留 憲史 ねじ・ばね機械専門部会会長
旭精機工業株式会社 常務取締役
橋口 玲 レーザ・プラズマ専門部会会長
コマツ産機株式会社 代表取締役社長
三須 肇 関東地区部会会長
株式会社 理研オブテック 代表取締役社長
木村 富美雄 理事
株式会社 アマダ 部長

<監事>

新仏 利伸 株式会社 ニッセー 代表取締役社長
大川 雅子 株式会社 コニック 代表取締役社長

MF功労賞 / 懇親会

総会ならびにMF優秀社員表彰式を終了後、会場を移して午後4時よりMF功労賞の贈呈と懇親会が開催された。

MF功労賞は顕著な業績をあげた元役員に感謝し顕彰するもので、今回は第13代鈴木康夫会長、第14代春山紀泰会長が受賞。賞状のプレゼンターは第11代天田満明会長と、第12代御子柴隆夫会長がつとめるとともに、新任の第16代八木隆会長まで25年間の6代の会長が勢ぞろいして壇上で記念写真におさまると会場からは大きな拍手がわきおこった。

続いて開かれた懇親会ではまず八木隆新会長が挨拶に立って就任の抱負を述べ、引き続いて経済産業省素材材産業室・菊田逸平室長補佐ならびに日本塑性加工学会・芳村泰嗣会長から挨拶をいただいた。

来賓の挨拶に続いて行われたのが新入会員の紹介。吉野機械製作所、板屋製作所、大峰工業、タガミ・イーエクス、日本スピンドル製造5社の代表者が壇上に立ち、企業紹介と入会にあたっての抱負を語った。5社の入会で会員数が最も減少した2007年10月の58社から、この5年間で25社の純増となり、現状の会員数は83社となった。

八木会長による乾杯の発声ののち懇親の輪が広がり、和やかな雰囲気の中、会員相互の親交を深めた。

MF感謝表彰式 受賞者一覧

MF功労賞	
鈴木 康夫	第13代会長
春山 紀泰	第14代会長
優秀社員表彰	
技術賞	
千田 広明	相澤鐵工所
河野 泰幸	アイダエンジニアリング
伊藤 裕規	オプトン
辻井 孝治	栗本鐵工所
矢野 芳隆	栗本鐵工所
山口 義博	コマツ産機
平石 研二	住友重機械工業
田渡 正史	住友重機械工業
檜垣 孝二	日本スピンドル製造
高田 佳昭	日本スピンドル製造
技能賞	
神田 昭二	アイダエンジニアリング
酒井 雅之	オプトン
長谷川 智哉	オプトン
河村 雅仁	しのはらプレスサービス
小林 亮	芝川製作所
岡村 伸之	日本オートマチックマシン
祖田 雄行	村田機械
山中 啓史	村田機械
石井 利昭	村田機械
海外賞	
米内山 純一	アイダエンジニアリング
麻生 光義	日本オートマチックマシン
サポート賞	
熊倉 俊夫	しのはらプレスサービス
松村 日出雄	芝川製作所



工業会役員と優秀社員表彰者で記念撮影



第11代からの歴代会長が壇上で記念撮影



菊田逸平経済産業省素材材産業室長補佐



芳村泰嗣日本塑性加工学会会長



新入会員5社の代表者が挨拶

“マザーマシン鍛圧機械と 塑性加工・レーザ加工の技術の進化”をテーマに 『MF-Tokyo 2013プレス・板金・フォーミング展』 が開幕

会場：東京ビッグサイト東1・2・3ホール
会期：7月24日(水)～27日(土)

午前10時
START

鍛圧塑性加工技術専門展として2009年にスタートした「MF-Tokyoプレス・板金・フォーミング展」は回を重ね、第3回目となる今回は副題に“マザーマシン鍛圧機械と塑性加工・レーザ加工の技術の進化”を掲げて7月24日から4日間の日程で東京ビッグサイトを会場にして開催されることとなった。

展示会規模も毎回拡大しており、今回は出展者201社、1,062小間となった。第1回(2009年)の112社701小間、第2回(2011年)の148社891小間に比べても、出展者数で毎回3割増、小間数で毎回2割増を見ており、鍛圧機械の開発先進国である日本から世界に発信する展示会として高い評価を受け、定着してきている。

出展者の充実した展示と合わせて毎回注目を集めるのがシンポジウム。今回は「サーボプレスの進化について」「熱間鍛造プレスの進化について」「ファイバーレーザ加工機の進化について」をテーマにして主要メーカーの技術者がパネリストになり各社の利点を主張する方式をとる。最終日には「CFRP加工法の進化」と題した講演会も行い、日本塑性加工学会講演21講座、レーザ加工学会講演4講座の開催にもすでに高い関心が寄せられている。加えて19の大学研究室がブースを設け研究成果の展示を行うなど、産学連携の実をあげる展示会としての評価も高い。

MF技術大賞2012-2013受賞5製品のパネル展示、MFエコマシンと認証された18社32製品72機種の紹介、さらには横須賀のヴェルニー記念館に保存されている日本最古のスチームハンマーの実物大パネルの展示など、展示会場は見どころ満載だ。特にMFエコマシンの認証制度は3年が経過したが、認証機の省エネ率は2000年生産機に対して加重平均52.1%の削減となっており、サーボ機構やインバータ制御、ファイバーレーザなど数々の省エネ技術の結晶が機械性能にあらわれていることに注目したい。



プレス・板金・
フォーミング展

METAL
FORMING &
FABRICATING
FAIR
TOKYO

マザーマシン鍛圧機械と
塑性加工・レーザ加工の技術の進化

MF-Tokyo
2013

会期：2013年7月24日(水) → 27日(土) 10:00～17:30
(土曜日は16:00まで)

会場：東京ビッグサイト 東館1・2・3ホール

主催：Jf一般社団法人 日本鍛圧機械工業会・日刊工業新聞社

●後援：経済産業省/厚生労働省/環境省/横須賀市教育委員会(申請予定)
●特別協賛：日本塑性加工学会/日本鍛造協会/日本金属プレス工業協会/日本金型工業会
●協賛：日本自動車工業会/日本電機工業会/日本建設機械工業会/レーザ加工学会/日本溶接協会
●海外協賛：中国机床工具工業協会/中国鍛圧協会/インド工作機械工業会/アメリカ製造技術工業会/台湾区機器工業同業公会/韓国工作機械産業協会
(順不同・法人格略)

URL: <http://www.mf-tokyo.jp>

MF-Tokyo 2013シンポジウムI 開催日:7月24日(水)14:00~15:30/会場:東京ビッグサイト レセプションホールB

テーマ:「サーボプレスの進化について」

コーディネータ:日本大学 生産工学部 機械工学科 教授 高橋 進氏

【パネリスト】

- ・アイダエンジニアリング 営業技術部 リーダー 渡辺 雄二氏
- ・コマツ産機 開発本部開発部 小型本体開発グループ 主任技師 佐藤 宏秀氏
- ・放電精密加工研究所 開発事業部 メカログループ 統括グループリーダー 高橋 竜哉氏
- ・山田ドビー 設計部 マネージャー 山田 亨氏



MF-Tokyo 2013シンポジウムII 開催日:7月25日(木)14:00~15:30/会場:東京ビッグサイト レセプションホールB

テーマ:「熱間鍛造プレスの進化について」

コーディネータ:名古屋大学 大学院工学研究科 教授 石川 孝司氏

【パネリスト】

- ・住友重機械工業 産業機器事業部 設計部 プレス設計グループ グループリーダー 山田 良亘氏
- ・栗本鐵工所 機械事業部 鍛圧機技術部 部長 木下 裕次氏
- ・榎本機工 専務取締役 小林 久雄氏
- ・阪村機械製作所 技術部 課長 遠藤 信幸氏



MF-Tokyo 2013シンポジウムIII 開催日:7月26日(金)14:00~15:30/会場:東京ビッグサイト レセプションホールB

テーマ:「ファイバーレーザ加工機の進化について」

コーディネータ:最新レーザ技術研究センター 代表取締役 沓名 宗春氏

【パネリスト】

- ・コマツ産機 板金事業部 開発部 主幹技師 林 清一氏
- ・村田機械 工作機械事業部 板金システム部 板金開発グループ 課長 小林 弘氏
- ・トルンプ 営業技術部 部長 宮島 弘之氏
- ・サルバニーニジャパン 技術サービス部 カスタマーケア マネージャー 早瀬 航一氏
- ・三菱電機 レーザ製造部 ファイバーレーザ 開発プロジェクトグループ
プロジェクトグループマネージャー 西田 聡氏



特別講演会

開催日:7月27日(土)11:00~12:00/会場:東京ビッグサイト レセプションホールA

テーマ:「CFRP加工法の進化」

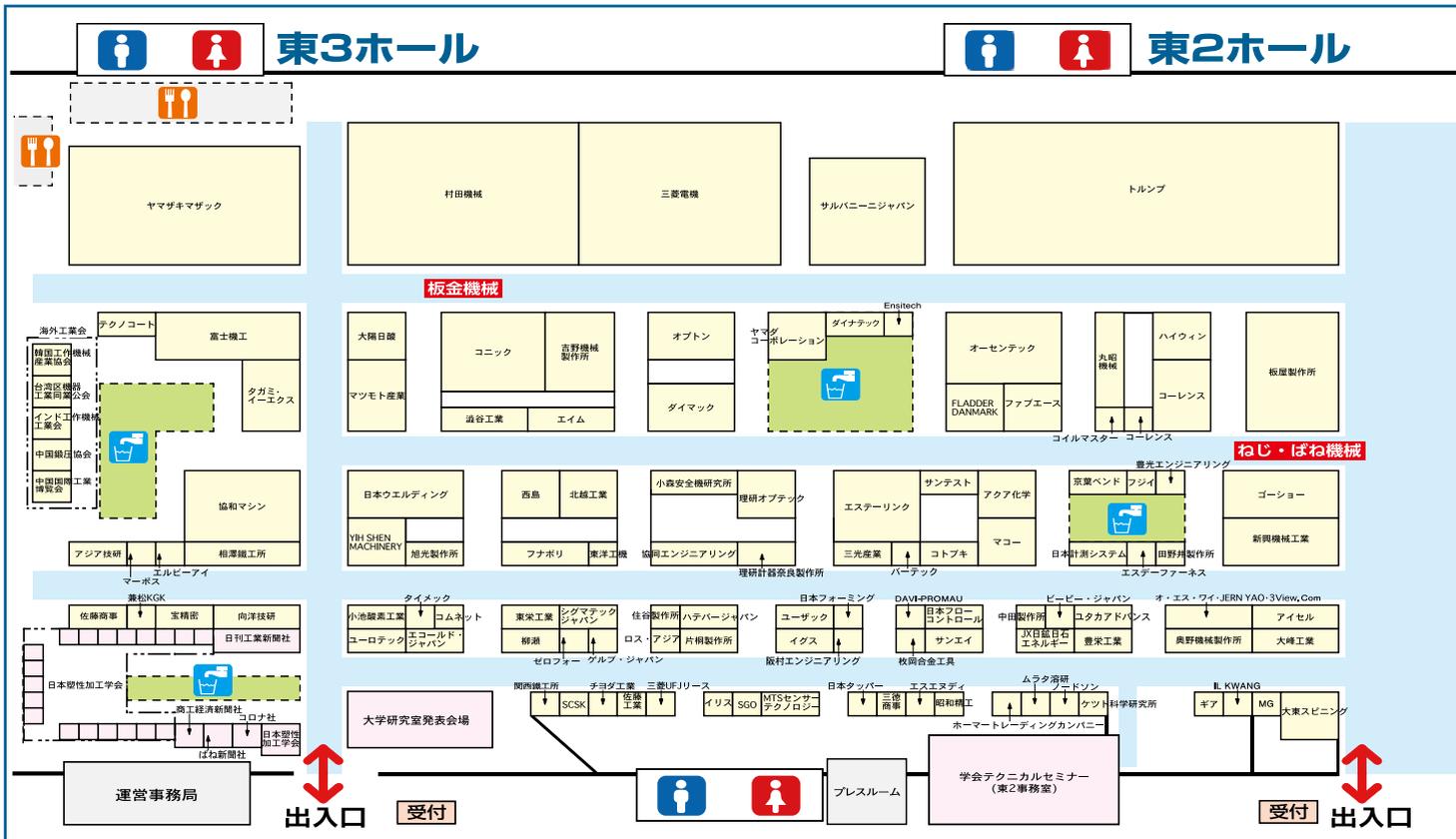
講師:三菱レイヨン 炭素繊維・複合材料技術統括室 担当部長 小川 繁樹氏



「MF-Tokyo 2013 プレス・板金・フォーミング展」開催概要

- 主催:一般社団法人 日本鍛圧機械工業会/日刊工業新聞社
- 後援:経済産業省/厚生労働省/環境省/横須賀市教育委員会
- 特別協賛:日本塑性加工学会/日本鍛造協会/日本金属プレス工業協会/日本金型工業会
- 協賛:日本自動車工業会/日本電機工業会/日本建設機械工業会/レーザ加工学会/日本溶接協会
- 海外協賛:中国机床工具工業協会/中国鍛圧協会/中国国際工業博覧会/インド工作機械工業会/アメリカ製造技術工業会/
台湾区機器工業同業公会/韓国工作機械産業協会 (以上、順不同・法人格略)
- 会期:2013年7月24日(水)~27日(土) 10:00~17:30(土曜日は16:00まで)
- 会場:東京ビッグサイト 東1・2・3ホール
- 出展小間数:1,062小間(前回891小間)
- 出展者数:201社・団体(共同出展含め300社)
(前回148社・団体、共同出展含め228社)
- 来場者数:目標35,000人(前回29,520人)

2013社出展・1,062小間と最大規模 鍛圧機械の開発先進国日本から世界に発信



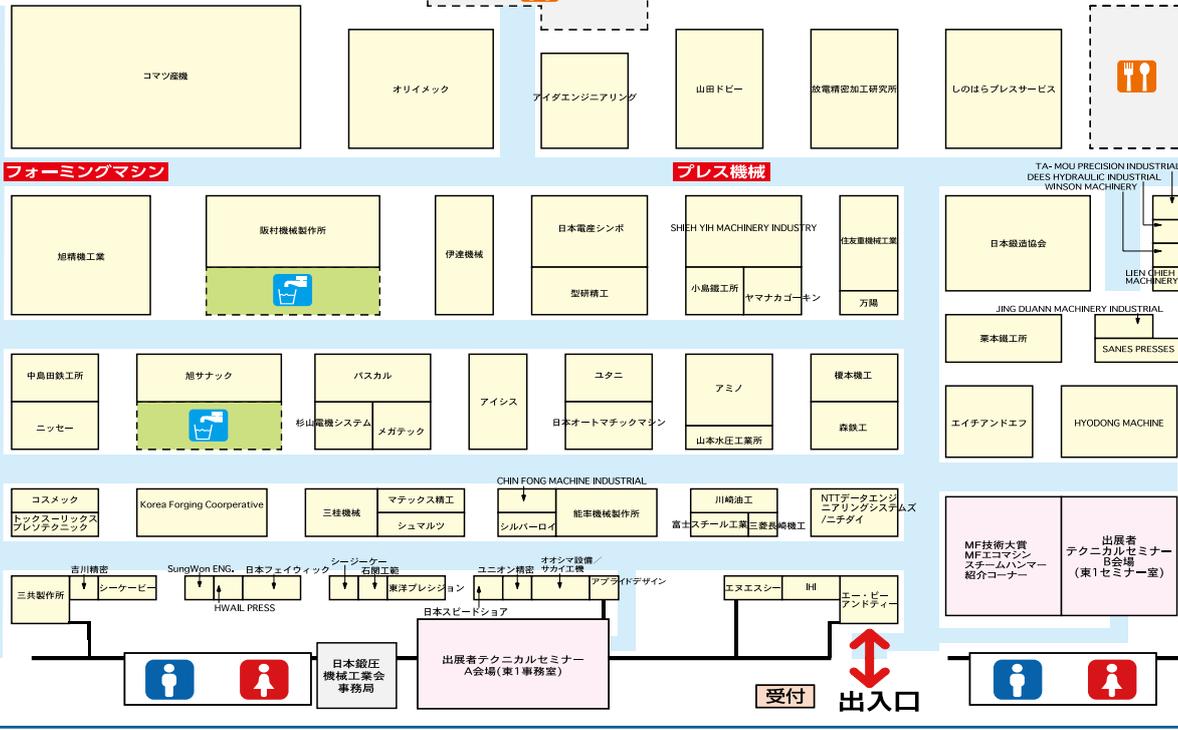
【日鍛工会員】

機械プレス	社数	小間数
コマツ産機	1	60
旭精機工業	1	24
放電精密加工研究所	1	15
山田トビー	1	15
日本電産シンボ	1	12
アイダエンジニアリング	1	12
エイチアンドエフ	1	9
アイシス	1	8
能率機械製作所	1	7
メガテック	1	4
マテックス精工	1	3
富士スチール工業	1	2
理研計器奈良製作所	1	2
IHI	1	2
小計	14	175
鍛造プレス (共同出展者)		
栗本鐵工所	1	8
住友重機械工業	1	8
榎本機工	1	6
エヌエスシー	1	2
万陽	1	2
小計	5	26
油圧プレス		
アミノ	1	9
森鉄工	1	6
日本オートマチックマシン	1	6
イービーアンドティー(スウェーデン)	1	4
小島鐵工所	1	4
山本水圧工業所	1	3
川崎油工	1	3
小計	7	35
フォーミング機械 (共同出展者)		
阪村機械製作所(ねじ)	1	18
板屋製作所(ばね)	1	16
旭サナック(ねじ)	1	10
オプトン	1	6
中島田鉄工所(ねじ)	1	6

ニッセー(ねじ)	1	6
岩谷産業、(ねじ) 3社	1	6
NTTデータエンジニアリングシステム	1	4
大東スピニング	1	4
アイセル	1	3
中田製作所	1	1
小計	9	70
送り装置・その他		
オリイメック	1	25
しのはらプレスサービス	1	20
伊達機械	1	10
型研精工	1	8
ダイマック	1	6
ユタニ	1	6
理研オプテック	1	4
大峰工業(コンベヤ)	1	3
ロス・アジア(米)	1	1
小計	9	83
プレス系機械合計	44	389
板金機械 (共同出展者)		
エフエーサービス	1	80
村田機械	1	48
サルバニーニジャパン(伊)	1	18
コニック	1	12
キャドマック	1	12
オーセンテック	1	12
富士機工	1	10
吉野機械製作所	1	8
タグミ・イーエクス	1	6
相澤鐵工所	1	4
ファブエース	1	4
向洋技研	1	3
ユーロテック	1	2
関西鐵工所	1	1
板金系機械合計	13	208
日鍛工 合計	57	597
特別協賛;出版など		
日本塑性加工学会	1	20
日本鍛造協会	1	20
MF技術大賞などパネルエリア	1	20

【出版・新聞社】			
日刊工業新聞社	1	3	
コロナ社	1	1	
商工経済新聞社	1	1	
ばね新聞社	1	1	
【海外工業団体】			
CCMI(中国)	1	1	
CCIF(中国)	1	1	
TAMI(台湾)	1	1	
IMTMA(インド)	1	1	
KOMMA(韓国)	1	1	
協賛団体等 合計	11	71	
【会員外=一般】			
プレス系機械 (共同出展者)	社数	小間数	
協易機械工業(台湾、サーボプレス)	1	12	
パスカル(クランプ、シリンダ)	1	8	
アクア化学(プレス用洗浄剤)	1	4	
杉山電機システム(検知)	1	4	
マコー(ウェットプラスト装置)	1	4	
ヤマナコケーキン(鍛造金型)	1	4	
三共製作所(送り装置)	1	4	
北越工業(エアコンプレッサー)	1	4	
シュマルツ(独、真空グリッパー)	1	3	
コスメック(金型交換システム)	1	3	
ニチダイ(鍛造金型)	1	3	
NTTデータエンジニアリングシステムズ(CAE)	1	3	
ニチダイ	1	3	
Chin Fong Machine Ind.(台湾、プレス)	1	2	
シルバロイ(加工)	1	2	
東洋プレジジョン(精密金型)	1	2	
GOIZPER(西)	1	2	
日本フェイウィック(クラッチ)	1	2	
イクス(ケーブル)	1	2	
サンエイ(搬送用コンベヤ)	1	2	
JX日鉱日石エネルギー(洗浄剤)	1	2	
豊栄工業(静電浄油装置)	1	2	
CKB(プレス)	1	2	
Schuler(独)	1	2	
日本フローコントロール(流量計)	1	2	
CGK(サーボプレス)	1	1	
ゲルブ・ジャパン(独、防振装置)	1	1	
SUNG-WON ENG.(韓、冷間鍛造品)	1	1	
ギア(サーボタップ)	1	1	

東1ホール



日本スピードショア (エアロラップ)	ヤマトワークス	1	1	コーレンス (プレスほかフォーミング)	Schuler (独)	1	6	三菱UFJリース (エコリース関係)	1	1
三菱長崎機工 (鍛造プレス)		1	1	三桂機械 (フォーマ)	Wafios, Otto Bihler, HMP	1	1	エスエスディ (超音波洗浄機)	1	1
日本タッパー (タッピングマシン)		1	1	丸昭機械 (フォーミング)	77社がかり、製作者	1	5	東洋工機 (溶接台)	1	1
兼松KKG		1	1	ハイウイン (ボールねじ)		1	4	パーテック (プレス成形部品用バリ取りブラシ)	1	1
石関工範 (プレス製品)		1	1	YIH SHEN MACHINERY (台、フォーミング)		1	4	SGO (韓、金型周辺機器装置)	1	1
タイメック (プレス部品加工)		1	1	オ・エス・ワイ (フォーマ)		1	4	SCSK (CAEソフトウェア)	1	1
ノードソン (プレス機潤滑塗布機)		1	1			1	3	小計	10	15
ムラタ溶研 (フープウェルダ)		1	1	協同エンジニアリング (ベンダー)	JERN YAO (台), 3View.com (韓)	1	3	板金系機械		
ユニオン精密 (冷間鍛造機)		1	1	奥野機械製作所 (ウェープリング成形機)		1	3	三菱電機 (レーザ加工機)	1	42
和ープレス (韓、プレス)		1	1	ユタカアドバンス (ベンディングマシン)		1	3	ヤマザキマザック (レーザ加工機)	1	40
BPジャパン (プレス用油)		1	1	佐藤商事 (フォーミング)	Fontijne Grotnes (蘭)	1	2	協和マシン	1	12
日本タッパー (プレス金型部品)	双日マシナリ	1	1	ハテバージャパン (スイス、鍛造金型)		1	2	エステーリンク (バリ取り)	1	9
吉川精密 (プレス加工製品)		1	1	日本計測システム (ばね試験機)		1	2	日本ウエルディング (YAGレーザ)	1	8
チヨダ工業 (金型)	ナノソフト	1	1	京業ベンド (パイプベンダー)		1	2	マツモト産業 (溶接)	1	6
Sanes Presses (台湾、プレス)		1	3	宝精密 (ばね製造機)	パイプ加工機工業会	1	2	FladderDanmark (デンマーク、バリ)	1	4
Jing Duann Machinery Industrial (台、鍛造プレス)		1	2	オオシマ設備 (ねじ製造機)	サカイ工機	1	2	西島 (丸鋸切断機)	1	4
Ta-Mou Precision Industrial (台、プレス)		1	1	枚岡合金工具 (金型)		1	1	ヤマダコーポレーション (溶接ヒューム回収装置)	1	4
Winson Machinery Casting (台、鋳造)		1	1	イリス (鍛造プレス)	FELSS (独)	1	1	太陽日酸 (レーザ加工用周辺機器)	1	4
Lien Chieh Machinery (台、油圧プレス)		1	1	Davi-Promau (伊、厚板フォーミング)		1	1	フナボリ (溶接)	1	3
Dees Hydraulic Industrial (台、油圧プレス)		1	1	コーレンス (フォーミング)	DREISTERN (独)	1	1	エイム (YAGレーザ)	1	3
Hosung Machinery (韓、鍛造プレス)		1	1	阪村エンジニアリング	名工技研	1	1	造谷工業 (ファイバーレーザ加工機)	1	3
Hanho Industrial (韓、ねじパーツ)		1	1	昭和精工 (金型)		1	1	旭光製作所 (プレスプレーキ)	1	2
Dong San IND. (韓、プレス用自動移送装置)		1	1	日本フォーミング (マルチフォーミング)		1	1	エコーロード・ジャパン (独、クラフトフォーマ)	1	2
Formetal (韓、ねじ)		1	1	コイルマスター (ばね)		1	1	三光産業 (バリ取り)	1	2
Kowon Metal (韓、オートパーツ)		1	1	ホームレーディングカバン (金属加工)		1	1	アジア技研 (スタッド溶接)	1	2
Chemitech (韓、鍛造離型剤)		1	1	田野井製作所 (タップ、ねじ転造)		1	1	東栄工業 (シートメタルツール)	1	2
Daewon Forging (韓、自動車部品パーツ)		1	1	フジイ (ばね試験機)		1	1	ユーザック (集塵機)	1	2
Agang Tech (韓、鍛造プレス)		1	1	豊光エンジニアリング (ばね試験機)		1	1	小池酸素工業 (レーザ)	1	2
Korea Forging Cooperative (韓、鍛造)		1	1	エスデーファーマネス (ばね)		1	1	シグマテック (ソフトウェア)	1	2
小計		55	112	マーボス (測定機器)		1	1	テクノコート (ファイバーレーザ)	1	2
油圧プレス				アブライドデザイン (ロール成形ソフト)		1	1	柳瀬 (研磨材)	1	2
トックスリークプレソテック (独、シリンド)		1	3	MG (伊、ロールフォーミング)		1	1	エルビーアイ (米、ベンディング、ソフト)	1	1
サンテスト (センサー)		1	2	IL KWANG CORPORATION (韓、フォーミング)		1	1	ゼロフォー (シミュレーションソフト)	1	1
コトブキ (油圧プレス)		1	2	小計		35	91	コムネット (ファイバーレーザ)	1	1
ケット科学研究所 (測定器)		1	1	送り装置・その他				住谷製作所 (ロールベンダー)	1	1
小計		4	8	小森安全機研究所		1	3	三徳商事 (板金機械用締結機、リベット)	1	1
フォーミング機械				MTSセンサーテクノロジー (米、リニアスケール)		1	2	Ensitech (豪、溶接)	1	1
孝東機械工業社 (韓、パーツフォーマ)		1	12	片桐製作所 (超硬素材)		1	2	小計	29	168
ゴシヨウ (ねじ製造盤)	SACMA (伊)	1	8	ダイナテック (エアアクションシステム)		1	2	一般 合計	133	394
新興機械工業 (ばね製造機)		1	8					総合計	201	1,062

最新の鍛圧塑性加工技術情報を発信 日本塑性加工学会・レーザ加工学会テクニカルセミナー25講座、

学会テクニカルセミナー会場（東2ホール事務室）

7月24日（水）

発表時間	講演者	講演題目
10:40～11:20	豊橋技術科学大学 工学部 機械工学系 教授 森 謙一郎 氏	超高張力鋼部材のホットスタンピング
11:30～12:10	首都大学東京 システムデザイン学部 システムデザイン研究科 教授 楊 明 氏	サーボプレスの高度利用技術
12:20～13:00	芝浦工業大学 デザイン工学部 教授 相澤 龍彦 氏	マイクロフォーミング：型材選択からドライプレス成形へ
13:10～13:50	(地独) 東京都立産業技術研究センター 開発本部開発第一部 機械技術グループ 主任研究員 玉置 賢次 氏	導電性セラミックスのドライプレス成形型への適用
14:30～15:10	中央大学 研究開発機構 教授 新井 武二 氏	シートメタルのレーザ加工
15:40～16:20	京都大学 大学院エネルギー科学研究科 教授 宅田 裕彦 氏	板材成形限界予測への延性破壊条件式の適用

7月25日（木）

発表時間	講演者	講演題目
10:40～11:20	名古屋大学 大学院工学研究科 教授 石川 孝司 氏	部材軽量化のための鍛造技術
11:30～12:10	東京農工大学 大学院工学研究科 教授 桑原 利彦 氏	成形シミュレーションの高精度化の秘訣
12:20～13:00	名古屋工業大学 大学院つくり領域 教授 北村 憲彦 氏	厳しい塑性加工を助ける環境に優しい型・潤滑技術
13:10～13:50	京都大学 大学院 エネルギー科学研究科 教授 馬淵 守 氏	冷間成形性に優れたマグネシウム合金圧延材の開発
14:30～15:10	千葉大学 名誉教授 渡部 武弘 氏	レーザ光線によるマイクロ加工からマクロ加工まで
15:40～16:20	東海大学 工学部 教授 吉田 一也 氏	進化するねじ ー最新事情ー
16:30～17:10	広島大学 大学院 教授 吉田 総仁 氏	ハイテンの最新の成形技術

7月26日（金）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	アイシン・エイ・ダブリュ 塑性生技部 次長 堀 智之 氏	インライン生産を実現する複動1ストロークプレスの実用化【平成24年度 日本塑性加工学会大会大賞受賞】
11:50～12:30	三菱日立製鉄機械 部長 加賀 慎一 氏	鉄板延縮化のための凹凸ソールを用いた両面FSW法の開発【平成24年度 日本塑性加工学会技術開発賞受賞】
12:40～13:20	国際計測器 代表取締役社長 松本 繁 氏	サーボモータ駆動方式による二軸引張試験機の開発【平成24年度 日本塑性加工学会技術開発賞受賞】
13:30～14:10	三星製作所 技監 神藤 宏明 氏	高負荷絞り加工における最適熱処理法の開発【平成25年度 日本塑性加工学会技術開発賞受賞】
14:20～15:00	合志技研工業 常務取締役 木山 啓 氏	セリットプレス鍛造加工技術の開発と実用化【平成25年度 日本塑性加工学会技術開発賞受賞】
15:10～15:50	東北大学 金属材料研究所 附属研究施設関西センター教授 早乙女 康典 氏	超塑性ナノマイクロ成形加工技術の研究開発【平成25年度 日本塑性加工学会大会大賞受賞】
16:00～16:40	広島大学 大学院工学研究科 教授 篠崎 賢二 氏	ホットワイヤ・レーザ溶接法による高能率・高品質溶接継手の作製

7月27日（土）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	首都大学東京 都市教養学部 工学研究科 教授 真鍋 健一 氏	軽量化成形技術「チューブフォーミング」の最新動向
11:50～12:30	電気通信大学 大学院情報理工学研究所 准教授 久保木 孝 氏	パイプおよび板材の新しい曲げ成形に関する技術開発
12:40～13:20	東京大学 生産技術研究所 教授 柳本 潤 氏	塑性加工による特性付与のための組織制御技術
13:30～14:10	大阪大学 大学院工学研究科 教授 宇都宮 裕 氏	熱間加工時の表面酸化皮膜（スケール）の挙動
14:20～15:00	大阪大学 接合科学研究所 教授 片山 聖二 氏	レーザ溶接現象および各種溶接欠陥の発生と防止策

出展者テクニカルセミナーA会場（東1事務室）

7月24日（水）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	阪村機械製作所 設計グループ 課長 黒川 則夫 氏	出展機及び最近の弊社フォーマーの特徴
11:50～12:30	コマツ産機 板金事業部 開発部 主幹技師 林 清一 氏	2次元ファイバーレーザ加工機の紹介
12:40～13:20	向洋技研 営業部 課長 橋田 周平 氏	高速溶接技術の解説
13:30～14:10	相澤鐵工所 代表取締役 相澤 邦充 氏	ファインジャーリングのテーラードブランク材への応用について
14:20～15:00	理研オブテック 取締役部長 加藤 一義 氏	新構造規格施行後のプレス周りの安全について
15:10～15:50	ニッセー テクニカルアドバイザー 竹増 光家 氏	二重ねじ機構に基づくボルト締結体の転造加工と性能評価

7月25日（木）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	アイダエンジニアリング 営業・サービス本部営業技術部営業技術1課 業務課長 井村 隆昭 氏	最近のプレス加工とULとDSFの活用
11:50～12:30	トルンプ レーザ溶接推進プロジェクト リーダー 岡 寛幸 氏	進化するファイバーレーザ加工について
12:40～13:20	コニック 技術部 部長 山本 伸一 氏	プレス板金用金型の基本仕様と性能について
13:30～14:10	村田機械 工作機械事業部 板金システム部 SEグループ 課長 西部 秀久 氏	需要変動に強い生産融合システム
14:20～15:00	オリイメック 技術部開発課 主任 鈴木 光 氏	一歩進んだ効率化を日本の生産現場に
15:10～15:50	三菱電機 名古屋製作所 レーザ製造部 GOSグループ グループマネージャー 村井 融 氏	三菱最新レーザ技術のご紹介

出展者テクニカルセミナー45講座を開催

出展者テクニカルセミナーA会場（東1事務室）

7月26日（金）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	旭サナック 金型事業部 課長 森田 真 氏	圧造現場の実際に関する考察
11:50～12:30	エイチアンドエフ 開発制御部 部長 中村 一行 氏	自動車部品用大型プレス及び自動化装置の最新動向
12:40～13:20	エー・ピーアンドティー 代表取締役社長 藍田 和雄 氏	ホットスタンプの現状
13:30～14:10	放電精密加工研究所 開発事業部 次長 村田 力 氏	ボールネジ直動式サーボプレスの特徴と加工事例
14:20～15:00	アミノ 成形課 溝口 雅士 氏	板材のダイレスNCフォーミング適応拡大事例について(厚板材への応用・展開)
15:10～15:50	住友重機械工業 産業機器事業部営業部プレスグループ国内営業チーム 主査 高木 克啓 氏	FPRシリーズの機能と評価について
16:00～16:40	ロス・アジア マーケティング部 ディレクター 白井 透 氏	ダブルバルブの安全性検証—ダブルバルブは本当に安全なのか?

7月27日（土）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	山本水圧工業所 技術部 課長 坂口 尚良 氏	管のドロヘンド、プリフォーム、ハイドロフォームによる矩形断面曲がり部の形シミュレーション
11:50～12:30	山田トピー 設計マネージャー 平光 和男 氏 開発チームリーダー 服部 竜一 氏	超高速精密プレスによる生産性向上への挑戦
12:40～13:20	川崎油工 技術部 機械設計グループ グループ長 松田 靖志 氏	自動車の軽量化に貢献する成形システム
13:30～14:10	小森安全機研究所 取締役会長 小森 雅裕 氏	欧州における安全柵の実情

出展者テクニカルセミナーB会場（東1セミナー室）

7月24日（水）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	トルンプ レーザ溶接推進プロジェクトリーダー 岡 寛幸 氏	進化するファイバーレーザー加工について
11:50～12:30	エルビーアイ LBI/Orbit Technology Corporation Toshi Sakai 氏	間違いだらけの伸び計算
13:30～14:10	小森安全機研究所 取締役会長 小森 雅裕 氏	欧州における安全柵の実情
14:20～15:00	旭サナック 金型事業部 課長 森田 真 氏	圧造現場の実際に関する考察
15:10～15:50	住友重機械工業 産業機器事業部 設計部 プレスグループ 梶谷 純平 氏	鍛造プレスの最近の動向

7月25日（木）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	阪村機械製作所 設計グループ 課長 黒川 則夫 氏	出展機及び最近の弊社フォーマーの特徴
11:50～12:30	ニッセー テクニカルアドバイザー 竹増 光家 氏	高性能焼結転造歯車の精度と強度
12:40～13:20	コマツ産機 開発本部 開発部 システム開発グループ グループ長 道場 栄自 氏	新型 小型ACサーボプレスの紹介
13:30～14:10	サンテス 営業部 西坂 信也 氏	MELSEC-Qヒルトイン油空圧サーボコントローラユニット
14:20～15:00	SHIEH YIH MACHINERY 成形技術部 菅沼 俊治 氏	SEVI発ダイレクトサーボプレス SD 1、SD 2 シリーズ
15:10～15:50	MTS センサーテクノロジー マーケティング部 部長 小嶋 安人 氏	生産性向上のための位置決めセンサーの使い方

7月26日（金）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	コマツ産機 板金事業部 開発部 商品企画開発グループ 主任技師 津野 仁志 氏	新型 ハイドロACサーボプレスプレーキの紹介
11:50～12:30	小森安全機研究所 取締役会長 小森 雅裕 氏	欧州における安全柵の実情
12:40～13:20	ゲルブ・ジャパン 技術営業部 榎本 祐司 氏	プレスの信頼性および生産性向上に貢献する防振システムのご提案
13:30～14:10	ニッセー ヘガネスジャパン テクニカルサポート部 部長 武田 義信 氏	粉末冶金法による高負荷対応ギヤの紹介
14:20～15:00	田野井製作所 技術部 沢辺 輝雄 氏	薄肉バーリング用タレットの使い方について
15:10～15:50	イリス Felss 営業部 Michael Bayer 氏	最新のスエーディング・アキシャル成形工法
16:00～16:40	山田トピー 設計マネージャー 平光 和男 氏 開発チームリーダー 服部 竜一 氏	超高速精密プレスによる生産性向上への挑戦

7月27日（土）

発表時間	講演者	講演題目
11:00～11:40	SCSK 解析ソリューション部 原田 英輝 氏	鍛造CAEソフトウェア[FORGE]のご紹介
11:50～12:30	ニッセー テクニカルアドバイザー 竹増 光家 氏	転造による高能率・高精度加工の可能性
12:40～13:20	コマツ産機 板金事業部 開発部 主幹技師 林 清一 氏	3次元レーザー加工機の紹介
13:30～14:10	ノードソン EFD ビジネスグループ 栗原 伸浩 氏	金属プレス加工の微細化、高速化、低コスト化のために

01 日本スピンドル製造株式会社

回転塑性加工技術をベースに スピニング&フローフォーミングマシンを展開

スピンドル技術から派生した 環境機器、産業機械を事業化

日本スピンドル製造は社名に“スピンドル”の5文字を冠している。周知のようにスピンドルは紡績機械の主要部品である糸を巻き取る軸のことであるが、1918年の創業以降、紡績業界の発展と軌を一にしながらスピンドルの製造メーカーとして大をなした同社は、スピンドル製造で培った各種技術を発展させ、「産業機械」「環境・リサイクル」「工場環境・空調」「教育・福祉環境」の各分野で新たな事業を確立し、現在では幅広い展開を行う。紡績工場の環境改善を進展させたのがエアフィルターや集塵機、クリーンルームの製作・販売であり環境・空調事業として現在では同社主力に、そしてスピンドルの回転制御技術や精密加工技術を進展させたのがスピニング&フローフォーミングマシンで事業を展開する産機事業部である。なかでも産機事業部は、従来からある技術と自社で培った特異技術を融合させることで、時代ニーズにあった高度化技術に昇華させ、鍛圧塑性加工技術の新たな道を拓いていることに注目しなければならない。

ターゲットは自動車部品。 ニーズに特化したソフト組み込みの機器を開発

同社では「回転塑性加工技術」という用語を前面に打ち出す。スピニング&フローフォーミング加工は文字通り加工部材を回転させながら塑性加工を行うものであり、回転塑性という言葉はその特性を言い得ている。しかしながら、そこには手作業のイメージがあるヘラ絞りを産業機械として自動車部品製造に不可欠のマシンにまで高度化した同社技術陣の自負が込められている。

そして同社は回転塑性加工技術をベースとしながら、「スピニング加工」と「フローフォーミング加工」を2本の柱として機械開発を図る。スピニング加工は薄肉のブランク材またはパイプを回転させローラーを押し付けながら成形を行うものであり、フローフォーミング加工は同じく回転させながら厚肉部材の板厚を変化させ、形状化していく加工法である。素材を

薄く伸ばす“外径しごき”、一箇所に集めて厚くする“増肉”、裂いて拡大する“裂開”のほか、“溝転造”“歯形転造”の5加工をベースとして、切粉を出すことなく、内外面にギヤやスプライン等を成形することができるのが最大の特長である。現在の注目技術のひとつだ。

スピニング&フローフォーミング加工によるアプリケーションとして、同社は1980年代以降、自動車部品にターゲットを絞ってきた。触媒コンバーターなどの排気系部品、さらにはポンペ、ショックアブソーバ、バッテリーケース、マフラーなどはスピニング加工の分野であり、アルミホイール、トラックディスク、クラッチケース、ドライブプレートなどはフローフォーミングの分野となる。そして各種プーリーはロールフォーミング加工である。

両技術をベースとして加工ニーズに適合した半専用機を標準仕様で開発し、顧客に供給する対応を同社はとる。アルミホイール加工機は横型と立型(写真1)があり、立型はサーボモータ駆動方式を採用する。プーリー加工専用機(写真2)は、NC制御による高精度・高再現性を実現し、切削加工に比べて大幅な生産性ならびに省資源化を可能とする。パイプ加工機(ワーク固定式)は、直管・偏心・傾斜加工を可能とした(写真3)。トランスミッション部品加工機(写真4)は、冷間での増肉加工(1.2→最大2.2mm)も行うことができる「フローフォーミングの特性を最も活かした」加工機である。

加えて1980年代からいち早くNC化に取り組みブレイバック方式のNCスピニングマシンを開発している。“職人の技”をソフトとして取り込んだもので、誰にでも簡単にスピニング加工特有の円錐器物が加工可能となった。

ノウハウセンターを常設 加工の優位性で市場をさらに拡大

本社敷地内に常設するフローフォーミングセンター(FFC)が、ノウハウセンターとして大きな機能を果たしている。フローフォーミングテスト機、パイプ加工用テスト機、小・大型スピニングテスト機、立型アルミホイールテスト機を常備し、顧客要望のテスト加工、



三島 守 社長



有藤 博 取締役産機事業部長

日本スピンドル製造株式会社

〒661-8510

兵庫県尼崎市潮江 4-2-30

TEL.06-6499-5551(代表)

http://www.spindle.co.jp



写真1 アルミホイール加工機(立型)



写真2 プーリー加工機



写真3 パイプ加工機(ワーク固定式)



写真4 トランスミッション部品加工機

試作加工を行うことによってソリューションを提供し、センターで培われた技術を活用して開発された独自の工法をマシンの機能高度化に組み込むという好循環も生み出している。

有藤博取締役産機事業部長もスピニング&フローフォーミング加工の優位性について次のように語る。

「切粉が出ずに材料歩留りが良い、二次加工が不要である、ブランク材1枚で多様な形状ができる、強度が維持できる、など多くの特性を持つスピニング&フローフォーミング加工は、時代ニーズに最も適合した加工法です。切削加工からの転換は大幅な生産性の向上とコストダウンを実現しますし、それは

アルミホイールやプーリーなどで実証済みです。工法の開発によって、これからは切削加工から転換できる部品も増えていくでしょうし、また、ボス出しなどプレス加工では不得意とする分野をスピニング&フローフォーミング加工に転換することも可能です。塑性加工のなかで新たな棲み分けができれば、鍛圧塑性加工のさらなる発展に寄与できると考えています」

顧客にはハードだけでなく、ソフトパッケージで装置を提供する方式をとる。鉄、アルミ、ステンレスに加え、チタンなど新素材分野も加工対象に加え、モノづくりにおいてスピニング&フローフォーミング加工の注目度はさらに高まりそうである。

02 大峰工業株式会社

端材搬送用チップコンベヤでは国内トップ エンジニア力を高め、システム対応を強化

プレス加工に不可欠の端材処理 50数年の開発実績

大峰工業は、生産工場において加工時に発生する端材を搬送して処理するチップコンベヤの国内トップメーカーである。プレス工場においては従来より抜き加工で端材の効率処理が必須となっており、チップコンベヤを組み合わせてトータルに制御したシステムの構築に高い需要がある。同社はその端材処理をチップコンベヤを活用してエンジニアリングし、システムの構築を主業務として事業展開する。50数年にわたっての開発・納入実績を有するだけに端材の搬送処理技術に対する評価は高い。

同社の履歴を溯ると、創業時にベアリング製造向けの鑄造用遊星ロール機の開発を図ったことが実質的なスタートとなった。1955年のことである。ベアリング会社との繋がりが深まるなかで工場を自動化したいとの要請を受け、「素材供給配列装置」を皮切りに「自動焼き入れ装置」「遠隔操作鋼材運搬装置」などを次々に開発。開発した装置を総合的に活用して、ベアリング工場では国内初となるオートメーション工場を手掛ける実績を残した。この実績が同社のベースをつくることになり、実績技術の中から「切粉搬送装置」にポイントを絞ってその後の事業展開を図ってきたことが現在の業態につながっている。

安全・堅牢でコストパフォーマンスが高く、 メンテナンス性の良い各種チップコンベヤを開発

1960年代以降同社は、ベアリング工場の合理化をベースに開発した端材搬送技術を、国鉄車両工場、造船工場、電機工場、自動車工場などに横展開し、端材処理のための搬送システムの高度化に注力してきた。しかしながら端材といってもその形状、板厚はさまざま、ロットごとに搬送条件も異なる。一品一様といっても過言ではない。電機工場のモータコア生産ラインなどでは端材形状が鋭角となるだけに、コンベヤにかみ込んで生産ラインを停止させる危険性も生じていた。どのような形状の端材であっても搬送装置を停止させないことが絶対条件であり、そ

のために同社は、「端材がコンベヤのどこにも付着したり絡まないこと」「端材が搬送工程でかみ込まないこと」「大きい搬送空間を保有し、嵩の大きい端材もこぼれないこと」「切削油・潤滑油がこぼれないこと」「小さい駆動力ながら、強度も高いこと」「メンテナンス性がよいこと」そして「高いコストパフォーマンスを有すること」等を開発要件として製品の高度化を図ってきた。

写真1は同社が“端材集中処理システムの決定版”と位置付けるタテ型チップコンベヤである。チェーン駆動による“片持ちスクレーパー方式”を最大の特長としており、シュート底面に摺動するスクレーパーが端材を搬送し、戻りは側壁に垂下して端材の投下および搬送をかみ込むことなくスムーズに行う構造となっている。チェーン切れなどのトラブルも解消しており、特許取得済である。

写真2は同じく片持ちスクレーパー方式のチップコンベヤであるが、自由に上下・左右に屈曲できるフロア型のもの。ピットを掘る必要がなくレイアウト変更による移設や配置換えにも柔軟に対応可能だ。

その他、搬送能力を大幅にアップした2軸スクリュータイプなど目的・仕様に合わせた各種チップコンベヤを数多く開発しており、写真3のように運搬車からホッパーへ移し替える手間を省いた「ノンタッチ大峰システム」など、端材搬送処理の一貫対応を可能としている。

受注の75%は鍛圧加工関連 大型システム案件の受注力高める

同社は需要先として鍛圧加工分野への比率を全体の75%程度まで高めており、機械内蔵型の端材処理から、工場全体の端材処理をシステムとしてエンジニアリングする形態へと、より付加価値の高い受注にシフトさせている。

システム受注へとシフトさせるひとつのきっかけとなったのが大手自動車プレス工場の端材搬送処理の受注であった。チップコンベヤを地下に張り巡らして全長100mを超えるラインをトータルに制御する方式であるが、工場の大きさ、プレス機の設置位置で変わる搬送レイアウト、搬送スピード、搬送する端材の



大峰工業株式会社

〒530-0001
 大阪市北区梅田 1-11-4
 大阪駅前第4ビル
 TEL.06-6344-1117
<http://www.ohmine.co.jp>

安川 勝 社長



写真1 プレスライン用片持ち式スクレーパーコンベヤ



ターニング用コンベヤ



写真2 フロア型大峰チップコンベヤ



写真3 ノンタッチ大峰システム ホッパーリフター



写真4 ホッパー・コンベヤシステム設置例

量と仕分けなどを統合して勘案しエンジニアリングしなければならぬ。安川勝社長も次のように語る。

「大型のチップコンベヤシステムを手掛けるようになって技術力、エンジニアリング力が飛躍的に向上しました。異なる条件に対応しクリアしていくためには、改善の積み重ねが必要であり、それがノウハウの蓄積にもなっています。搬送ラインの停止は、機械本体ひいては工場全体の稼働にも影響するため絶対に許されません。とくに地下に敷設する場合はメンテナンス性、安全性が要求されます。堅牢でありながらメンテナンスは現場の担当者でも簡単にできるようにシンプルにしてあります。目に見えない経験値の積み重ねが信頼性の高いシステム構築の要因となり、実践から培ったコストパフォーマンスの高い製品

力とは他の追随を許さないと自負しています」

営業担当者は全員技術兼任である。現地でのライン構想まで担当する。顧客ニーズにきめ細かくスピーディに対応する同社の姿勢が競争力を高めていることがわかる。

顧客企業の海外進出にともない海外案件も増えている。米国、中国はもとより、メキシコ、インド、ロシアならびにEU、東南アジア各国等々とグローバルに展開し、企業としての存在感を増している。端材搬送処理は生産の一次加工分野とは異なり、まさに“縁の下の力持ち”であるが、それだけに不可欠の工程であり、同分野で比類のない技術の蓄積を図った同社の競争力はグローバル市場においてもローカル企業の追随を許さない。

新聞報道 から見た 会員動向

日刊工業新聞、日経産業新聞、日本経済新聞、全国紙、一般紙などに掲載された会員の記事を抄録して順不同で掲載します。

今回は2013年3月16日から6月14日に掲載されたものが対象ですが、決算、人事などの情報は除外しています。

日本鍛圧機械工業会+共通

- 日鍛工など、7月に「MF-Tokyo2013」-188社・団体が競演
2013/03/21 日刊工業新聞 5ページ 357文字 PDF有
- 鍛圧機械受注46.7%減、円高修正で投資見直す動き——3月、自動車向けが低調。
...プレス機メーカーなどが加盟する日本鍛圧機械工業会（東京・港）が8日発表した....
2013/04/09 日経産業新聞 13ページ 516文字 PDF有
- 昨年度の鍛圧機械受注額、14.3%減で3年ぶりマイナス
2013/04/09 日刊工業新聞 6ページ 610文字 PDF有
- 深層断面/円安進行、光と影
2013/04/10 日刊工業新聞 28ページ 3303文字 PDF有
- 深層断面/加工機メーカー、省エネマシンで攻めろ!!
2013/04/22 日刊工業新聞 24ページ 2634文字 PDF有
- 日鍛工、新会長に八木氏
2013/04/22 日刊工業新聞 7ページ 275文字 PDF有
- 鍛圧機械のISO規格化、佳境に—日本、JISベースに原案
2013/05/06 日刊工業新聞 5ページ 1725文字 PDF有
- 鍛圧機械受注額12%増、4月、輸出好調、国内は減少。
...プレス機メーカーなどが加盟する日本鍛圧機械工業会が10日発表した4月...
2013/05/13 日経産業新聞 15ページ 436文字 PDF有
- 4月の鍛圧機械受注、12%増の216億円—5か月ぶりプラス
2013/05/14 日刊工業新聞 7ページ 357文字 PDF有
- 産業団体総会/日鍛工、会長に八木氏選任
2013/05/20 日刊工業新聞 3ページ 314文字 PDF有
- 成長戦略/「インフラ輸出」始動—国内での投資機運期待
2013/05/20 日刊工業新聞 9ページ 585文字 PDF有
- 日本鍛圧機械工業会など（インフォメーション）
日本鍛圧機械工業会など 7月24～27日午前...
2013/05/29 日経産業新聞 13ページ 243文字 PDF有
- 5月の鍛圧機械受注、17%減の200億円—国内設備投資が減速
2013/06/11 日刊工業新聞 7ページ 390文字 PDF有
- MF-Tokyo2013 (1) 日本鍛圧機械工業会会長・八木隆氏に聞く
2013/06/11 日刊工業新聞 7ページ 1377文字 PDF有

プレス機械系

■コマツ

- 迫る 発祥の地で初仕事 コマツ社長、大橋徹二氏 粟津主導で技術革新 「東京一極集中し過ぎ」 現場にしか真実ない
2013/04/02 北国新聞 朝刊 5ページ 1534文字 PDF有

■コマツ産機

- コマツ金沢工場、年内はフル稼働 大型プレス、今期42台生産
2013/03/22 北国新聞 朝刊 4ページ 705文字 PDF有
- プレス機新製品、消費電力を削減、コマツ産機、2種発表。
プレス機製造などを手掛けるコマツ産機（金沢市）は21日...

2013/03/22 日本経済新聞 地方経済面 北陸 8ページ 168文字 PDF有

- 子会社の板金事業統合、コマツ、開発力底上げ狙う。
... 砺市) が手掛けるレーザー事業をコマツ産機（金沢市）に移管し...
- 2013/04/02 日経産業新聞 13ページ 絵写表有 391文字 PDF有
- コマツ産機/曲げ角度を自動補正するサーボプレスブレーキ
2013/04/08 日刊工業新聞 19ページ 219文字 PDF有
- コマツ産機、高性能機種を積極投入—板金事業15年度売上高200億円
2013/04/16 日刊工業新聞 7ページ 453文字 PDF有
- さあ出番/コマツ産機社長・橋口玲氏 「開発・サービスを刷新」
2013/05/10 日刊工業新聞 7ページ 520文字 PDF有
- レーザー加工機 コマツが新製品 発振器を自社開発
2013/05/30 東京新聞朝刊 7ページ 242文字 PDF有
- コマツ産機、板金の切断速度6倍、レーザー加工機。
コマツ産機（金沢市、橋口玲社長...
2013/05/30 日経産業新聞 15ページ 468文字 PDF有
- ファイバーレーザー加工機/コマツが市場参入/ファイバー式への不安払拭/加工性、低コストなどPR
2013/06/03 鉄鋼新聞 4ページ 1776文字
- MF-Tokyo2013 (3) コマツ産機社長・橋口玲氏に聞く
2013/06/13 日刊工業新聞 8ページ 1180文字

■アイダエンジニアリング

- アイダエンジニア、マレーシアに汎用機向けサーボモーターを生産移管
2013/03/18 日刊工業新聞 10ページ 524文字 PDF有
- 調達NOW・購買担当役員に聞く/アイダエンジニアリング取締役副社長・中西直義氏
2013/04/09 日刊工業新聞 4ページ 1107文字 PDF有
- アイダエンジニア、英ジャガーからタンデムライン受注
2013/05/27 日刊工業新聞 6ページ 747文字 PDF有
- アイダエンジニア、インドネシアとブラジルにプレス機のオーバーホール拠点
2013/06/06 日刊工業新聞 7ページ 665文字 PDF有

■エイチアンドエフ

- エイチアンドエフ、職能給比率引き上げ。
自動車用プレス機生産のエイチアンドエフは今月から賃金制度を改定...
2013/04/24 日本経済新聞 地方経済面 北陸 8ページ 329文字 PDF有

■IH

- 航空機向け大型部材生産 Jフォージ本社工場完成 玉島世界最大級プレス機
2013/04/25 山陽新聞朝刊15版 1ページ 660文字 PDF有

■旭精機工業

- 旭精機工業、スマホ向けプレス機参入。
旭精機工業 旭精機工業はスマートフォン（スマホ）の電池部品...
2013/06/04 日本経済新聞 朝刊 12ページ 154文字 PDF有
- 旭精機、スマホ向けプレス機参入、能力20%高く、海外を猛追。
旭精機工業はスマートフォン（スマホ）の電池部品...
2013/06/04 日本経済新聞 地方経済面 中部 7ページ 絵写表有 795文字 PDF有

■能率機械製作所

- 能率機械とリール、プレス機械の中国製販で提携—難加工材用など6機種
2013/05/31 日刊工業新聞 8ページ 641文字 PDF有

■森鉄工

- 2013年春 (2) 佐賀県——製造業活況、物流は転機（九州沖縄景気点検）
...つながっている。プレス機械メーカーの森鉄工（同県鹿島市）は金属板...
2013/04/17 日本経済新聞 地方経済面 九州 13ページ 絵写表有 726文字 PDF有
- 県工業大賞に中島製作所（森鉄工が知事特別賞を受賞）
2013/06/12 佐賀新聞 23ページ 461文字 PDF有

■山田ドビー

- 山田ドビー、きょうから内覧会
2013/05/20 日刊工業新聞 9ページ 210文字 PDF有
- 山田ドビー、アフターサービス強化—海外でプレス機械の需要深耕
2013/06/13 日刊工業新聞 9ページ 584文字

フォーミング系

■中田製作所

- 日新鋼管／新造管ライン竣工／来月末から本格稼働へ
2013/05/24 日刊産業新聞 1ページ 470文字
- 三菱日立製鉄機械の印コンキャスト買収／ブレットCC、4強時代に／メニューを多様化／上工程で売上げ比率高める
2013/05/28 鉄鋼新聞 2ページ 1195文字

■中島田鉄工所

- マイスターに聞く (53) 機械加工—中島田鉄工所・酒井一喜さん
2013/03/27 日刊工業新聞 11ページ 751文字 PDF有
- わが社のアジア戦略—中島田鉄工所 高価格でも納得の品質
2013/06/06 西日本新聞朝刊 12ページ 911文字 PDF有

■日本スピンドル製造

- JR福知山線脱線事故から8年 大切な人思い、鎮魂 面影、あの日のまま／兵庫
2013/04/26 毎日新聞 地方版 26ページ 2143文字

板金系

■アマダ

- ものづくり+α (3) アマダ、売った後こそ商機——データ蓄積は宝の山（産業再興）
...穴をあけたりする板金機械大手、アマダが今、収益構造を大きく変えよう...
2013/03/18 日経産業新聞 1ページ 絵写表有 1896文字 PDF有
- ミヤチテクノス、TOBが成立、アマダ子会社に。
板金加工機大手のアマダは22日、ミヤチテクノスに対して実施...
2013/03/25 日経産業新聞 17ページ 166文字 PDF有
- アマダ、ベンディングマシン用操作画面に新デザイン—NECのUCD手法採用
2013/04/17 日刊工業新聞 6ページ 597文字 PDF有
- アマダ、東欧に販売拠点、板金機械の需要狙う、競合の独社を追い上げ。
板金機械大手のアマダが東欧市場の開拓を本格...
2013/04/17 日経産業新聞 12ページ 絵写表有 832文字 PDF有
- アマダ、中国に7営業所増設
2013/04/23 日刊工業新聞 8ページ 459文字 PDF有
- アマダ「持ち株制も選択肢」、就任10年、岡本社長に聞く、業界トップ目指す。
...注力 板金加工機械大手のアマダが2016年3月期の...
2013/05/09 日経産業新聞 15ページ 絵写表有 1585文字 PDF有
- アマダ、新型複合機「ラスベンド」を国内初披露
2013/05/10 日刊工業新聞 6ページ 452文字 PDF有

- アマダ展示会／国内外に革新技術アピール／板金ソリューション
2013/05/17 日刊産業新聞 3ページ 1196文字
- アマダ、中国向け板金機械の現地生産6割に拡大—上海に新工場
2013/05/23 日刊工業新聞 6ページ 523文字 PDF有
- アマダ、上海板金機械工場が稼働—自動化ニーズ対応
2013/05/28 日刊工業新聞 6ページ 1211文字 PDF有

■トルンプ

- 独トルンプ、パンチレーザー複合機を開発—来月、日本で初公開
2013/06/12 日刊工業新聞 6ページ 477文字 PDF有
- MF-Tokyo2013 (2) トルンプ社長のハルトムート・パネン氏に聞く
2013/06/12 日刊工業新聞 6ページ 1037文字 PDF有

■村田機械

- 村田機械、大板加工対応のタレットパンチプレス投入—モーター式で最大幅
2013/04/09 日刊工業新聞 6ページ 395文字 PDF有
- 村田機械、金型に取り付けられる位置センサーモジュール投入
2013/05/09 日刊工業新聞 6ページ 447文字 PDF有
- 高精度 金型の位置測定 村田機械 センサー部品開発
2013/05/17 京都新聞朝刊 11ページ 279文字 PDF有
- MF-Tokyo2013 (4) 村田機械・常務工作機械事業部長の前田彰氏に聞く
2013/06/14 日刊工業新聞Newsウェブ21 6ページ 1146文字

■相澤鐵工所

- 相澤鐵工所／シャーリング受注好調／円安・建設需要増進い風
2013/04/12 日刊産業新聞 3ページ 758文字

■向洋技研

- 向洋技研、アルミ合金などを抵抗溶接する技術開発—仕上げ作業不要
2013/06/14 日刊工業新聞Newsウェブ21 7ページ 656文字

■コニック

- 日本を支えるKANSAIモノづくり企業 (176) コニック
2013/03/26 日刊工業新聞 33ページ 1087文字 PDF有

6月11日より、日刊工業新聞でMF-Tokyo 2013の記事連載がスタートしました。



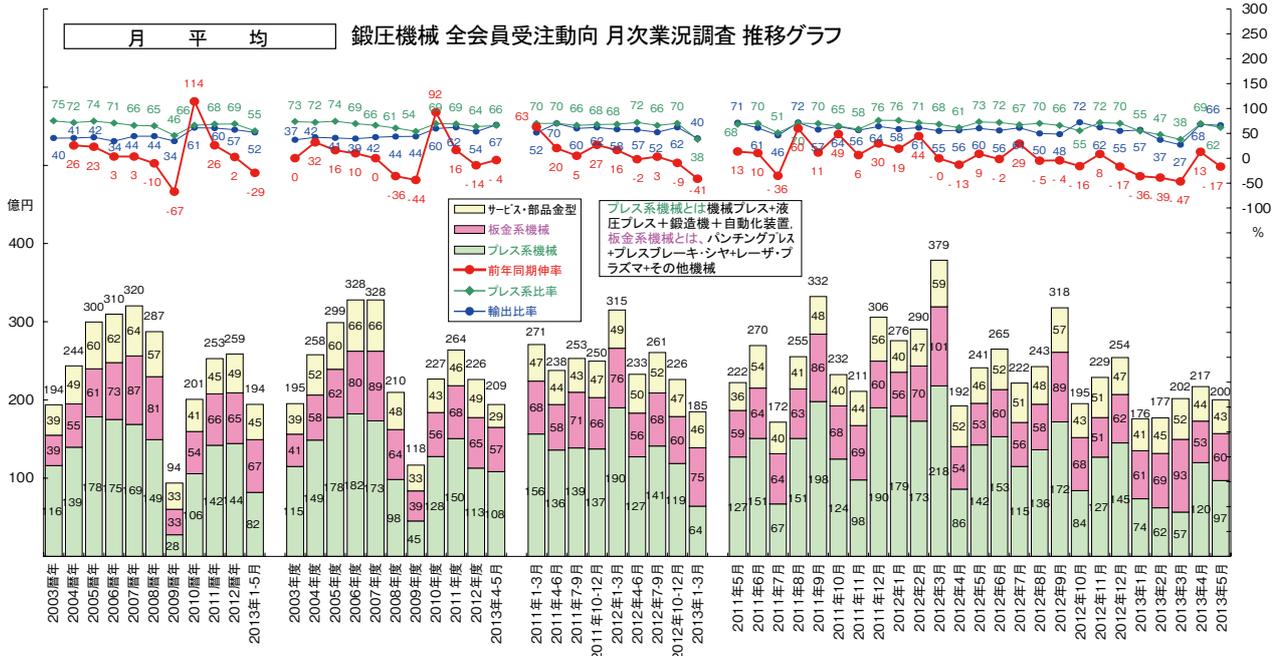
▶ 鍛圧機械 全会員受注グラフ (月次業況調査)

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

2013年6月7日

2013年5月度 鍛圧機械 全会員受注動向 月次業況調査コメント

- 概況 受注総計は200.2億円、前年同月比△17.0%減で、再び二桁マイナスとなった。国内設備投資の回復には至らず5ヶ月連続のマイナス、輸出向もマイナスに転じた。プレス系比率が61.7%、輸出比率は66.0%となった。板金系機械は比較的堅調であるが、プレス系の落ち込みが厳しい。
- 機種別 プレス系機械は96.9億円、前年比△32.0%減。中型は+8.6%増だが、超大型△39.9%減、大型△10.3%減、小型も△50.3%減。自動化・安全装置は+20.2%増。板金系機械は60.1億円、前年比+13.1%増。レーザー・プラズマは+48.2%増だが、ハンピングは△11.3%減、プレスレーキも△5.4%減となった。
- 内外別 国内は53.4億円、前年比△31.5%減。金属製品製造業は+31.0%増だが、自動車△58.2%減、一般機械△41.8%減、電機△37.6%減、鉄鋼・非鉄金属も△73.3%減。(機種計) 輸出は103.6億円、前年比△11.9%減。欧州が4.9倍増、中国も+28.5%増だが、北米は△12.2%減、東南アジア△56.4%減、韓国・台湾△42.1%減、インド△25.3%減。



▶ ISO/TC39/SC10/WG1第6回国際会議に出席

「ISO 16092 プレス機械の安全」を審議するISO/TC39/SC10/WG1の第6回国際会議が、2013年4月15～17日ドイツ シュツットガルトのPilz社で開催された。7カ国より合計24名、日本からも齋藤主査、畑チーム長、事務局の楠田の3名が参加し、プレス機械の安全について審議した。

2010年11月に第1回の国際会議が開催されて以来、3年半を要したが16092-1 (一般的な要求事項)、16092-3 (液圧プレス)のNP (新業務項目提案)の投票が3月28日締切りで実施され、CD (コミッティードラフト)として承認された。次のステージは2014年1月に向けて、CD投票を行う予定である。16092-4 (空圧プレス)についても、次のツールズ国際会議でレビューし、NP投票のステージに進む予定である。

16092-2 (機械プレス及びサーボプレス)は個別Ad-hoc会議で、フランス、米国、ドイツ、日本の4カ国を中心に日本が



第6回国際会議の様子

原案を出し、ドラフトを作成している。国内対策委員会で内容をさらに詰めて、11月のツールズ会議に臨む。

更に、2014年4月2～4日の第8回国際会議は東京に招致することに決り、日本側の積極的な活動が規格内容にも反映できるような国際会議にすべく、万全を期していく。(楠田記)

お悔やみ

2013年4月30日(火)、元当会副会長の川副道彦氏(享年92歳)が永眠され、5月2日(木)に告別式が執り行われました。謹んでご冥福をお祈りいたします。故川副氏は、株式会社 川副機械製作所 取締役相談役(元社長)であり、1965年から39年間理事を務められ、内2年間は副会長としても当会の発展に貢献され、長年の功績により、藍綬褒章を受章されています。哀悼の意とともに感謝の意を捧げます。

2013・2014年度 委員会・専門部会委員一覧 (2013年7月1日現在)

1. 企画委員会 (8名)

委員長 小松製作所 岡田 正
 委員 アイダエンジニアリング 北野 司
 エイチアンドエフ 伊藤 敏之
 栗本鐵工所 木下 裕次
 コマツ産機 藤田 則夫
 住友重機械工業 中山 芳和
 村田機械 今尾 泰行
 山田ドビー 鈴木 英夫

2. 技術委員会 (33名)

委員長 エイチアンドエフ 宗田 世一
 委員 相澤鐵工所 相澤 邦充
 アイシス 岸本 信宏
 アイダエンジニアリング 寺塚 幸正
 アサイ産業 森元 寿
 旭サナック 橋本 秀之
 旭精機工業 小澤 和彦
 アマダ 熊坂 文雄
 アミノ 塩川 和良
 エイチアンドエフ 宮川 哲郎
 榎本機工 榎本すみれ
 大阪ジャッキ製作所 森田 寛
 オリイメック 鈴木 智彦
 川崎油工 西村 具視
 関西鐵工所 西口 博之
 小島鐵工所 星野 文男
 コニック 山本 伸一
 コマツ産機 畑 幸男
 コマツ産機 吉見 康弘
 阪村機械製作所 黒川 則夫
 しのはらプレスサービス 川端 信行
 タガミ・イーエクス 石原 真
 中島鐵工所 山口 健二
 中田製作所 関ヶ井光朋
 日本電産シンボ 岩畔 哲也
 能率機械製作所 岩田 啓之
 放電精密加工研究所 高橋 竜哉
 村田機械 宮本 隆美
 山田ドビー 平光 和男
 吉野機械製作所 佐藤 正人
 理研オプテック 佐山 恒照
 ロス・アジア 白井 透
 ロス・アジア 三井 智成

2-1.MFエコマシン認証審議会 (12名)

委員長 東京大学 柳本 潤
 副委員長 ESCO推進協議会 布施 征男
 チーム長 アイダエンジニアリング 鈴木 利雄
 副チーム長 アマダ 長澤 忠彦
 コマツ産機 高田 政明
 委員 アミノ 塩川 和良
 エイチアンドエフ 古市 祐明
 オリイメック 井出 勉啓
 阪村機械製作所 黒川 則夫
 トルンブ 宮島 弘之
 村田機械 清水 泰善
 山田ドビー 平光 和男

2-2.ISO/WG1 対策委員会 (11名)

主査 労働安全衛生総合研究所 齋藤 剛
 外部委員 産業安全技術協会 金子 辰巳
 三菱電機 榎本 健男
 コマツ技術アドバイザー 高橋 岩重
 アイダエンジニアリング 寺塚 幸正
 アマダ 曾我 充正
 エイチアンドエフ 五十嵐 徹

川崎油工 川本 晴一
 コマツ産機 畑 幸男
 日本オートマチックマシン 鈴木 清一
 山田ドビー 森 弘行

2-3.ISO/WG12 対応チーム委員会 (4名)

チーム長 アイダエンジニアリング 鈴木 利雄
 委員 アマダ 長澤 忠彦
 コマツ産機 高田 政明
 アドバイザ 学術博士 上野 滋

2-4.JIS 改正原案作成分科会 (9名)

副委員長 日本大学 高橋 進
 主査 エイチアンドエフ 五十嵐 徹
 委員 アイダエンジニアリング 寺塚 幸正
 アマダ 原 卓也
 川崎油工 松田 靖志
 コマツ産機 高田 政明
 住友重機械工業 関 浩之
 村田機械 川崎 孝行
 山田ドビー 石原宗太郎

3. 調査統計委員会 (8名)

委員長 オリイメック 内田 百馬
 委員 アイダエンジニアリング 井上 智文
 アマダ 石川 紀夫
 コニック 木内 善範
 コマツ産機 生田 周作
 村田機械 和田 洋司
 山田ドビー 鈴木 英夫
 理研オプテック 木山 浩一

4. 広報見本市委員会 (17名)

委員長 トルンブ 浜川 善和
 委員 アイダエンジニアリング 榎田 英子
 オプトン 増本 久司
 川崎油工 吉国 守
 栗本鐵工所 木下 裕次
 小島鐵工所 児玉太郎彦
 コニック 渡邊 昭
 コマツ産機 藤田 則夫
 しのはらプレスサービス 篠原 清人
 住友重機械工業 井上 孝仁
 トルンブ 宮島 弘之
 ニッセー 深山 宗谷
 放電精密加工研究所 高橋 竜哉
 村田機械 足立 日光
 山田ドビー 鈴木 英夫
 吉野機械製作所 小場 茂
 理研オプテック 小川 敏

5. 中小企業青年委員会 (10名)

委員長 アミノ 網野 雅章
 委員 エヌエスシー 村岡 純一
 榎本機工 榎本すみれ
 しのはらプレスサービス 篠原 正幸
 ニッセー 新仏 克利
 山田ドビー 山田 梓美
 油圧機工業 奥谷 泰介
 ユタニ 辰巳 芳丈
 吉野機械製作所 吉野 靖将
 理研オプテック 三須麻衣子

6. 鍛造プレス専門部会 (13名)

部会長 住友重機械工業 高瀬 孔平
 委員 アイダエンジニアリング 井村 隆昭
 アミノ 小泉 義雅

エヌエスシー 村岡 純一
 榎本機工 小林 久雄
 栗本鐵工所 木下 裕次
 小島鐵工所 高瀬 勝美
 コマツ産機 須田 博文
 阪村機械製作所 遠藤 信幸
 住友重機械工業 平石 研二
 富士スチール工業 東田 任人
 メガテック 天野 光久
 森鉄工 竹村 新一

7. 油圧プレス専門部会 (8名)

部会長 小島鐵工所 児玉 正蔵
 委員 アサイ産業 森元 寿
 アミノ 秋山 茂和
 川崎油工 川本 晴一
 小島鐵工所 榎淵 洋二
 三起精工 岡田 栄治
 中田製作所 鶴田 論
 森鉄工 國塚健二郎

8. ねじ・ばね機械専門部会 (9名)

部会長 旭精機工業 阿比留憲史
 委員 旭サナック 橋本 秀之
 旭精機工業 大林 英次
 オリイメック 頼住 昌丈
 阪村機械製作所 遠藤 信幸
 ティーエスプレジジョン 外園 啓三
 中島鐵工所 益永聖三郎
 ニッセー 天野 秀一
 モリタアンドカンパニー 森田 英嗣

9. レーザ・プラズマ専門部会 (6名)

部会長 コマツ産機 橋口 玲
 委員 アマダ 小野寺 宏
 向洋技研 橋爪 和裕
 コマツ産機 岡本 匡平
 トルンブ 岡 寛幸
 村田機械 小林 弘

10. サービス専門部会 (10名)

部会長 村田機械 前田 彰
 委員 相澤鐵工所 相澤 邦充
 アイダエンジニアリング 井ノ上剛史
 アマダ 峰山 隆樹
 関西鐵工所 大矢 喬
 コマツ産機 坂口 隆男
 しのはらプレスサービス 篠原 敬治
 日本電産シンボ 木村 一夫
 村田機械 清水 理
 吉野機械製作所 馬場 英一

10-1.MF スーパー特自検策定チーム (6名)

チーム長 アマダ 峰山 隆樹
 委員 コマツ産機 坂口 隆男
 小島鐵工所 長島 弘明
 アイダエンジニアリング 井ノ上剛史
 オブザーバ 安全衛生総合研究所 齋藤 剛
 コマツ産機 畑 幸男

11. 関東地区部会 (43社)

部会長 理研オプテック 三須 肇

12. 中部関西地区部会 (38社)

部会長 栗本鐵工所 岡田 博文

一般社団法人 日本鍛圧機械工業会 会員一覧

2013年7月1日現在 五十音順・法人格省略

会員 (81社)

相澤鐵工所	タガミ・イーエクス
アイシス	ダテ
アイセル	伊達機械
アイダエンジニアリング	ティーエスプレジジョン
アサイ産業	東和精機
旭サナック	トルンプ
旭精機工業	中島田鉄工所
アマダ	中田製作所
アミノ	ニシダ精機
IHI	ニッセー
板屋製作所	日本オートマチックマシン
エイチアンドエフ	日本スピンドル製造
エー・ピーアンドティー	日本電産シンポ
エヌエスシー	日本ムーグ
榎本機工	能率機械製作所
大阪ジャッキ製作所	日立オートモティブシステムズ
オーセンテック	ファブエース
オプトン	富士機工
大峰工業	富士スチール工業
オリイメック	放電精密加工研究所
型研精工	ホンダクリエティブ
川崎油工	松本製作所
関西鐵工所	マテックス精工
栗本鐵工所	万陽
向洋技研	宮崎機械システム
コータキ精機	村田機械
小島鐵工所	メガテック
コニック	モリタアンドカンパニー
コマツ	森鉄工
コマツ産機	山田ドビー
阪村機械製作所	山本水圧工業所
サルバニーニジャパン	油圧機工業
三起精工	ユーロテック
しのはらプレスサービス	ユタニ
芝川製作所	ヨシツカ精機
蛇の目マシン工業	吉野機械製作所
住友重機械工業	理研オブテック
ソノルカエンジニアリング	理研計器奈良製作所
大東スピニング	理工社
大同マシナリー	ロス・アジア
ダイマック	



会報 METAL FORM No.47 2013年7月

2013年7月1日発行 No.47 (季刊1,4,7,10の月の1日発行)

発行所 一般社団法人 日本鍛圧機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館3階 電話03(3432)4579(代)